



令和4年度

まちづくりセミナー 2023 の開催報告

「北の住まいるタウン」の取組を進めるヒントとなり、道内の様々な地域でも課題とされるテーマについて、先進事例に学ぶまちづくりセミナーをオンラインで開催しました。

道内外の4つの市町の現場でご活躍されている担当者の方を講師としてお招きし、2つのテーマに関連するまちづくりのポイントをお話いただき、chatでの参加者からのご質問に対応いただきました。

日時 令和5年
2月3日(金)
13:30~16:00

参加者 66名

テーマ 1 住民と行政が協働で進める防災対策

●事例1・高知県黒潮町

「犠牲者ゼロ」をめざす黒潮町の地震・津波対策

黒潮町 情報防災課 課長 村越 淳氏

●事例2・標津町

「標津町オリジナルHUG」の作成と「地域循環型防災教育」の構築

標津町 住民生活課 危機管理室長 和田 直人氏

テーマ 2 未来へつなぐスマートなまちづくり

●事例3・香川県三豊市

住み慣れたところで住み続けられるまちづくりを目指して ～地域公共交通活性化の取組～

三豊市 政策部 交通政策課 課長補佐 近藤 佳隆氏

●事例4・上士幌町

スマートタウン構築とゼロカーボン上士幌の実現を目指して

上士幌町 ゼロカーボン推進課 主幹 井溪 雅晴氏

北海道 北の住まいるタウン
まちづくりセミナー 2023
～道内外の4事例に学ぶまちづくりの進め方～

防災 北海道では、人口減少・少子高齢化や広域分散型の都市構造などの課題に対し、北海道の個性を活かし、地域特性に応じて、誰もが心豊かに住み続けられることが、安全・安心・暮らしやすく、資源・エネルギー循環が基盤となる「北の住まいるタウン」の実現に向け取り組んでいます。
この取組を進めるためのヒントとなり、道内の様々な地域でも課題とされるテーマについて、道内外の先進事例に学ぶまちづくりセミナーをオンラインで開催します！地域のまちづくりに関心のあるみなさん、ご一緒にこれからのまちづくりの進め方をご話しください！

日時 2023年 2月3日(金) 13:30~16:00 **70名**
対象 まちづくりに関心のある道内在住の方
参加費 無料
オンラインで開催!!

テーマとご紹介いただく事例

テーマ1 住民と行政が協働で進める防災対策

高知県 黒潮町 「犠牲者ゼロ」をめざす南海トラフ地震対策
講師: 黒潮町 情報防災課 課長 村越 淳氏
2022年3月、南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高の推計が公表され、最大震度7、最大津波高が34.4mという日本一厳しい数字でした。町として「犠牲者ゼロ」をめざすという覚悟を決め、役場職員は全員が地域担当制で防災業務を兼務することとしました。

標津町 「標津町オリジナルHUG」の作成と「地域循環型防災教育」の構築
講師: 標津町 住民生活課 危機管理室長 和田 直人氏
標津町は津波や大雪、高潮の被害を受ける恐れのある地域で、防災教育に力を入れています。標津町では和と器で「標津町オリジナルHUG」を作成し、地域住民と共に防災、防災教育の取組を進めています。

テーマ2 未来へつなぐスマートなまちづくり

香川県 三豊市 福祉MaSやグリーンスロー・モビリティなど新しい取組を進めるSDGs未来都市
講師: 三豊市 政策部 交通政策課 課長補佐 近藤 佳隆氏
三豊市のSDGs未来都市計画の中心事項が、町の特色を生かしたネットワーク型交通プロジェクトで、ICTやIoTなどの新しい技術を活用し、道の交通や地域の課題解決を目指し、町民は積極的に取り組んでいます。

上士幌町 ゼロカーボン土物の実現とスマートタウンの構築を目指して
講師: 上士幌町 ゼロカーボン推進課 主幹 井溪 雅晴氏
上士幌町では、平野人形屋敷上士幌イオンスタジアムによるエネルギー供給、太陽光発電の導入促進、地域の産業振興をすすめています。防災教育の取組についても取り組んでいます。2023年4月、町民会館「田代町民会館」が完成しました。

お申込方法は裏面をご覧ください。▶▶▶

●テーマ1 住民と行政が協働で進める防災対策

●高知県黒潮町 「犠牲者ゼロ」をめざす黒潮町の地震・津波対策

黒潮町は過去の歴史において、100年～150年に一度南海地震との共存を余儀なくされてきました。2012年3月には、南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高の推計が公表され、最大震度7、最大津波高が34.4mという日本一厳しい数字でした。町として「犠牲者ゼロ」をめざすという覚悟を決め、役場職員は全員が地域担当制で防災業務を兼務することとしました。

住民と共に地区ごとに現地点検やワークショップを実施しながら避難道や津波避難タワーの整備・戸別津波避難カルテや地区防災計画づくり等の取組を進めてきました。町民の意識も高まり、防災はこの町に住まう作法となっています。



講師の村越氏



避難困難区域の解消

●標津町 「標津町オリジナルHUG」の作成と「地域循環型防災教育」の構築

標津町は洪水や大雪、高潮の被害を受ける恐れのある地域ですが、防災の講演会や訓練を行っても防災意識が高い参加者しか集まらない状況で、若いうちからの教育が重要だと感じました。そこで、高校の特色を知って欲しい教育委員会・人材育成を図りたい高校・行政の思いが集まり、地域循環型防災教育が始まりました。高校生はオリジナル HUG を作成し、中学生や小学生、大人にも防災研修を実施し、東北地方への被災地研修にも行っています。高校生の資料収集やプレゼン能力も上がり数々の受賞をしてきました。地域コミュニティの強化にもつながっています。



講師の和田氏



標津高校生の被災地研修

●テーマ2 未来へつなぐスマートなまちづくり

●香川県三豊市 住み慣れたところで住み続けられるまちづくりを目指して～地域公共交通活性化の取組～

2019年、「三豊市活性化プロジェクト」がスタート。「交通・移動」を切り口として企業を巻き込み、「人」「モノ」「サービス」などの課題解決への取組です。複数の通所介護事業所における「共同送迎サービス事業」では、企業と連携し AI を活用した共同送迎モデルを導入。車両と人員の削減につながりました。離島でも粟島で企業と連携してグリーン・スロー・モビリティ等に取り組んでいます。市内コミュニティバスはデジタルシステムの導入等でサービスを向上。「行きたいときに行きたいところに行けるまち」の実現を目指しています。



講師の近藤氏



コミュニティバス利用促進の取組

●上士幌町 スマートタウン構築とゼロカーボン上士幌の実現を目指して

上士幌町では自動運転やデマンド化、貨客混載により利便性向上と CO2 削減を図っています。自動運転では令和3年に全国初の雪道での運行実証を実施。翌年国土交通省の実証調査事業に採択され、自動運転バスの定期運行を開始しました。ドローンの活用では、山岳遭難救助サービスや省人化と脱炭素化による地域内物流の最適化を目指した配送実証、ドローンとトラックのベストミックスで効率化した新スマート物流等に取り組んでいます。このように、新しい技術をいち早く社会実装することで住民生活の利便性向上に努めています。



講師の井溪氏



上士幌町のMaaSプロジェクト

参加者の声 (アンケートより)

遠方の講師や視聴者が参加できるのでオンライン開催はありがたい

防災もまちづくりやコミュニティの多様性に役立つ視点があると思った
また交通弱者の対策はまちづくりの基本だと感じた

講師の発表時間はもっと長い方が良い

「北の住まいるタウン」の取組の内容についてまとめたガイドブックをWEBでご紹介しています

発行：北海道（建設部 建設政策局 建設政策課）電話 011-204-5284（担当：内山）

編集：「北の住まいるタウンに係る普及啓発業務」受託事業者：株式会社石塚計画デザイン事務所

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kks/kitasuma_top.htm

2023年3月発行



facebookページもご覧ください
「北の住まいるタウン」

